

令和元年度 札幌市交通事業 決算の概要（別紙）

1 軌道事業会計の決算のポイント

（１） 予算総括表について（１頁）

「営業収入」は、14 億 6,700 万円で、乗車料収入が主なものとなります。（①）

「営業支出」は、19 億 9,700 万円で、人件費、経費及び減価償却費を計上しています。（②）

「営業外収支」、「特別利益及び損失」を加えた「収益的収支差引」は、5,400 万円の赤字となり、元年度予算からは1 億 2,800 万円の好転となります。（③）

「資本的収入」から「資本的支出」を差し引いた「資本的収支差引」は、1 億 5,900 万円の不足となります。（④）

「累積資金過不足額」は、2 億 8,400 万円の資金残となり、元年度予算からは1 億 3,200 万円の好転となります。（⑤）

（２） 業務量について（２頁）

「在籍車両数」は、低床車両シリウスが納入されたことにより2 両増加し、36 両となりました。

「輸送人員の一日平均」は、2 万 3,444 人となり、前年度に比べ637 人の減少となっています。

乗車料収入は、14 億 400 万円と前年度に比べ3.7%の減となっています。

（３） 主要事業の概要について（３頁）

建設改良費は、右側に記載している事業を実施し、総額 17 億 6,800 万円となりました。

（４） 過去５年間の傾向について（４頁）

(1)の折れ線グラフは「1 日平均乗車人員」、棒グラフは「乗車料収入」の推移です。

(2)の「経常収支」の状況については、乗車料収入の減少や経費の増加などにより減少しています。

(3)は「企業債」の状況については、老朽化設備等の改良更新を進めていることから、企業債残高は増加傾向にあります。

(4)の「資金」の状況については、経常収支の悪化などにより、前年度から減少しています。

2 高速電車事業会計の決算のポイント

(1) 予算総括表について (5 頁)

「営業収入」は、445 億 1,900 万円で、乗車料収入が主なものとなります。(①)

「営業支出」は、353 億 5,600 万円で、人件費、経費及び減価償却費を計上しています。(②)

「営業外収支」、「特別損失」を加えた「収益的収支差引」は、94 億 1,000 万円の黒字となり、元年度予算からは 11 億 6,800 万円の好転となります。(③)

「資本的収入」から「資本的支出」を差し引いた「資本的収支差引」は 210 億 3,900 万円の不足となります。(④)

「累積資金過不足額」は、15 億 3,400 万円の資金残となり、元年度予算からは、13 億 3,100 万円の好転となります。(⑤)

(2) 業務量について (6 頁)

「輸送人員の一日平均」は、61 万 9,971 人となり、前年度に比べ 1 万 1,208 人の減少となっています。

乗車料収入は、414 億 6,500 万円と前年度に比べ 0.8%の減となっています。

(3) 主要事業の概要について (7 頁)

建設改良費は、右側に記載している事業を実施し、総額 98 億 8,100 万円となりました。

建設改良事業の大部分は、施設設備の老朽化に伴う改修工事となります。

(4) 過去 5 年間の傾向について (8 頁)

(1)の折れ線グラフは「1 日平均乗車人員」、棒グラフは「乗車料収入」の推移です。

(2)の「経常収支」の状況については、黒字を維持している状況です。

(3)の「企業債」の状況については、借入額を上回る償還を行うことで折れ線グラフのとおり、企業債残高の縮減に努めています。

(4)の「資金」の状況については、前年度に引き続き資金不足は発生していません。